

2018年度活動報告 CJP授業 : レギュラー2

著者	志村 ゆかり
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	79-79
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028113

2018 年度活動報告 CJP 授業：レギュラー 2

志村 ゆかり（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

レギュラー 2 では、初級後半の学生を対象とし、初級後半の表現を使って日常会話ができるようになること、身の回りのことについて事実や感想をまとめた長さで表現できるようになることを目標とした。授業は 1 週間に 3 コマで、うち 2 コマは文法と会話、1 コマは作文にあてた。教科書は、『まるごと 日本のことばと文化 初級 2 A2 りかい』『同 かつどう』を使用し、学期前半で第 1 課～第 6 課、後半で第 7 課～第 10 課、および 13 課を扱った。学生は、春・秋とも 1 名であった。

2. 授業内容

本授業を選択する学生は、日本語が必修ではないが、出身国で日本語をある程度学習し、基礎的日本語力や身につけた日本語の運用力を伸ばしたいという希望がある。

特に、2018 年度は春・秋とも履修した学生が 1 名だったため、履修生の希望に沿って、授業を進めた。よって、メインテキストの『まるごと 日本のことばと文化 初級 2 A2 りかい』で、文法、語彙の学習をし、『同 かつどう』で運用力の伸長を図りつつ、授業中の会話のなかで、学生の興味関心に沿って話題を広げたり、学習項目から離れて、学生に必要と思われる文法や語彙の導入を行ったりした。

なお、学習課題として、課ごとに提出される新出語の意味確認シート、文法の復習プリントを課し、評価は、筆記による文法、語、短作文の試験と、ロールプレイを中心とした口頭試験を行った。

3. 成果と今後の課題

2018 年度の履修生が春・秋ともに 1 名だったことにより、アンケートのコメントは両学期とも授業評価も教師への評価も高い。理由は、やはり 3 名の教師が 1 名の学生のために配置されているので、指導がきめ細やかに行え、学生の日本語力や適性などを把握しやすかったためではないだろうか。来年度については、学生数によって、工夫点や課題なども違ってくるだろうと予想されるので、臨機応変に対応したい。